

けんぶ 剣舞と出会い飛躍を遂げる

すずき まさたか
鈴木 将貴 さん



PROFILE

すずき まさたか(中町・16)
掛川特別支援学校高等部1年。剣舞
歴は10年。日本壮心流で「剣武道初
段」の腕前。

障がいには負けたくないために

鈴木将貴さんは、ダウン症候群(ダウン症)と呼ばれる遺伝子的な先天性疾患を持って生まれた。ダウン症は身体的、知的発達の遅れが主な症状だ。ダウン症の将貴さんが剣舞を始めて10年。きっかけは、母の美江子さんが目に留めた剣舞体験講座の記事。それまでも和太鼓やヒップホップダンスなどを習っていたが、全て障がい者対象の教室。美江子さんは「いつかは社会に出て1人で生きていくことになり。そのための力をつけてほしい」と願い、連絡を取った。道場の杉山景星師範が「本人のやる気次第」と快諾してくれたことが決め手となり、剣舞への挑戦が始まった。

剣舞で培ったもの

剣舞とは、詩吟に合わせ刀や扇子で詩の情緒を表現する伝統芸能。ダウン症により身体が未成熟だったため、初めは刀をきちんと止める動作やジャンプ着地時にバランスを保つことが難しかった将貴さん。しかし、稽古の積み重ねで身体が鍛えられ、今では

ジャンプや刀を振るいながら発する気合の掛け声が最も楽しい瞬間だという。

剣舞を続けて身に付いたのは技術や筋力だけではない。礼節を重んじる伝統芸能の世界に身を置き、礼儀正しさも学んだ。中学校では、とてもきれいにお辞儀ができる生徒だと、卒業式の卒業証書授与の代表に選ばれた。

一筋に打ち込み初段に

「注目されることが好き」と話す将貴さんに剣舞はぴったりだった。観客の視線全てが自分に集まる気持ちよさを励みに、5級から始まる級位をこつこつと昇り、平成29年12月には初段に合格した。今はより一層の向上心を持って稽古に励み、目指すは3段。将貴さんが所属する日本壮心流では3段に昇段すると雅号(剣武道家としての名前)をもらえる。将貴さんは「いつか名前をもらいたい」と夢を語り、師範も応援している。何か一つ、夢中で取り組めるものが見つかれば、ハードルを乗り越え輝ける。そんな姿を見せる将貴さんは多くの人の希望となるだろう。